

## ようこそ、カラカス日本人学校ホームページに

本校は今年創立41周年目を迎えた世界でも有数の歴史と伝統を誇る日本人学校として、邦人・日系人の方々に支えられ、親しまれてきた伝統校です。先人たちが、1975年バージェフレスコに学校を創立し、1978年にカステジャーナを経て、1981年に現在のアティージョの広大な地に白亜の三階建ての校舎を新築しました。この間、児童生徒数の一番多い時には全校119名を記録し、今までに卒業していった児童生徒は約300名、今までに在籍した児童生徒は1000名を越します。

想像してみてください。カラカス日本人学校を巣立っていった子どもたちが成人して世界中で活躍している姿を…。想像してみてください。カラカス日本人学校で学んだ子どもたちの子どもが世界のどこかの日本人学校で学んでいる姿を…。想像してみてください。今も世界のどこかで同じ星空を眺めながら母校カラカス日本人学校に思いをはせている人々がいることを…。想像してみてください。このホームページを懐かしく見ている卒業生の姿を…。私たち日本人学校に関わる人間は、脈々と続く時の流れを大切にしなければならないと考えます。年度の始まりにあたって、まず私は先人に感謝したいと思いました。カラカス日本人学校を創立し、ここまで育ててくださったことに感謝します。

私は平成11年度～13年度に同じ南米のチリにありますサンチャゴ日本人学校で教頭として勤務しておりました。そのときに、南米の歴史や日系人の方々の苦勞を学び、南米の日本人学校が小中学生の学びの場だけではなく、邦人や日系人、現地の方々の学びの場、交流の場、絆（きずな）の場であることを学びました。よく日本でも「学校は地域のセンターである」「絆の要（かなめ）である」と言われますが、日本人学校もまた同じであることを実感しました。「学校」は、子どもたちが育ち、保護者が育ち、そして教師も育ち、つながっていく、そんな場所でなければならないということ学びました。平成14年3月に、涙を流して去った南米の地に今再び赴任できたことに限りない喜びと大きな責任を感じています。

本年度の重点目標を一昨年度、昨年度と同じ「世界一楽しい学

校の創造」(第三章)(開かれた学校、特色ある学校の創造)としました。すべての子どもたちに「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を基盤とする「生きる力」を着実に育てることをねらいとして、「全教職員が全児童の指導に当たる(我が子の如く慈しむ)」姿勢を大切に、カラカス日本人学校らしいひとりひとりの個性を大切にした教育を全教職員一丸となって進めていきます。そのために、全教職員が一人一人の子どもの心と個性をしっかりと見極め、すべての子どもたちにとって、毎日が明るく楽しい「温もりのある学校」を目指していきたくと考えています。子どもたちの口から、「学校が楽しい」「勉強が楽しい」「みんなと遊ぶのが楽しい」…という声が聞けるよう、教職員が切磋琢磨、創意工夫して世界一楽しい学舎(まなびや)としての学校を創造していきます。

また、「世界一楽しい学校」を創造するために、人、もの、情報等が双方向に行き交う「開かれた学校」、ひとりひとりの子どもに個性があるように学校にも個性があります。カラカス日本人学校らしい「特色ある学校」を目指していきます。児童生徒数が少ないからといって心配しないでください。日本中どこでも、意図して転居しない限り、みんな「たまたま」大規模校に通ったり、中規模校、小規模校に通うことになるのです。日本には児童生徒数1500名を越す超マンモス校もあれば、たった1名の島の学校もあります。野に咲く花のように、誰もがそこで花開き、結実するのです。世界で二番目に児童生徒数の少ない日本人学校(平成28年度)で学ぶことの素晴らしさを実感させるのが、私たちの務めであると思っています。安心してください。確かな学びと充実した学校生活、楽しい学校生活を約束します。

見てください、知ってください、わかってください、感じてください。日本の地球の反対側にあるベネズエラのカラカス日本人学校の様子を、取組を、子どもたちを…。このホームページを通じて、ありのままのベネズエラ、ありのままのカラカス、ありのままの日本人学校の姿をリアルタイムでお知らせします。どうか、ホームページをご覧になって、私たちと同じようにベネズエラを好きになってください。お願いします。(平成28年4月記す)

第14代カラカス日本人学校 校長 駒田 泰久(京都府)